



PHILIPPINES

SURVEY CAMP
16. August—7. September

REPORTED BY FIWC-KYUSYU

(目次)

- 1. はじめに**
- 2. 重要人物紹介**
- 3. 事前、下見スケジュール**
- 4. Survey (事前調査) について**
- 5. 2017年度春ワーク内容**
- 6. Evaluation について**
- 7. 生活状況**
- 8. 各係報告**
- 9. あなたが思うキャンプの魅力!**

1.はじめに

海を越えたその先には
家族がいた
大切な人がいた
大好きな村人がいた

“村人のために”
そう考えるのは難しいかもしれない
しかし
“あなたの大切な人”
“いつも隣にいる人”
そう考えると自然と頭に浮かぶ

“日本人とフィリピン人”
ではなく
“私と村人”
でもなく

“私”と“あなた”

そういう関係を
私は作っていきたい

知らない土地、知らない人々
しかしそこには
新しい世界が広がっている
たくさんの可能性を秘めた
新しい世界が

私は
あなたと共に歩みたい
一緒に
フィリピンに行きませんか

2017年度フィリピンキャンプリーダー

4.survey (事前調査) について

Survey ってなに??

Survey とは、我々フィリピンキャンプが次のプロジェクトを決めるために毎回行っている事前調査のことである。Survey は夏の下見キャンプのなかで最も大切なものの一つであり、実際に貧困村を目でみて、実際に村人から話を聞くということに重きを置いている。

なお今回は、「確実性」「深刻性」「公益性」「即効性」「滞在のしやすさ」、5つの軸に照らし合わせてプロジェクト決定を行った。



今回の Survey 内容

- 1, 前回のキャンプ地 (BUTASON I) にて村長、村役人などから問題を抱える周辺の集落を紹介してもらう。
- 2, BRGY GIMARCO (ヒマルコ村) での Survey
- 3, 市長への表敬訪問 プロジェクトへの協力を要請
- 4, BRGY GIBACUGAN (ヒバコガン村) での Survey
- 5, CITIO CUTA (ヒバコガン村クータ地区) での Survey
- 6, BUTASON-II (ブタソン II 村) での Survey
- 7, 2018 年度ワーク地決定 MTG

Survey 候補地の決定経緯

ブタソン I の村長に周辺に問題を抱えている村、集落はないかと訪ねたところ、BRGY GIMARCO (ヒマルコ村) の名前が挙げられた。そのため、前回 Survey は行ったが、プロジェクトが行われなかった BRGY GIBACUGAN (ヒバコガン村)、CITIO CUTA (ヒバコガン村クータ地区)、BUTASON-2 (ブタソン 2 村) の 3 つに BRGY GIMARCO (ヒマルコ村) を加えた 4 つの地区で Survey を行うこととした。

BRGY GIMARCO (ヒマルコ村) での Survey

抱えている問題	BRGY 全体として水道設備が不十分であり、村人のほぼ 100%が水の入手に苦勞している。 過去に市や他団体による水道設備敷設のプロジェクトが行われたが、政治的な対立も影響し、適切な管理がなされず現在は使われていない。 村の外縁部へつながる橋の作りが非常に脆く、その先に住む約 30 軒の人が危険に晒されている。
想定されるワーク	水道設備の敷設工事、橋の改善 (詳細は後述)
メリット	この村の村長は我々 FIWC の活動に非常に協力的であるため、ワークや日本人の滞在に対して十分なサポートが受けられる。 山間部にある水源の水量は十分であるため、確実な改善が期待できる。 日本人の滞在場所が綺麗。
デメリット	水道設備の改善だけでは、一部の住人が利益を享受出来ない。 今回、水道設備を改善したとしても適切な管理がなされず、また壊れてしまう可能性がある。 村がハイウェイに沿って広いのでキャンパーの安全管理に不安が残る。

新年度のワーク地決定に際して

今回の Survey は上記した 4 つの BRGY, CITIO で行った。その Survey とその後の MTG の結果から今回のワークは BRGY GIMARCO で行うことを決定した。なおワーク地を決定するにあたり、「確実性」「深刻性」「公益性」「即効性」「滞在のしやすさ」の 5 つの観点で評価した。(下のグラフを参照)

しかし、実際は技術的、金銭的な問題から BRGY BUTASON II と BRGY GIBACUNGAN をワーク地に選ぶことは不可能であった。これはワークリーダーとして非常に悔しいことであった。とくに BRGY BUTASON II は他の村に比べ貧困のレベルがかなり高く、より深刻性を感じたので個人的には、この村を助けたいという思いが強かった。今回はワーク地として選ぶことは出来なかったが次回も Survey で村を訪れ、いつかこの村でワークをしてほしいと切に願う。

5.2017年度春ワーク内容

ワーク概要

場所：フィリピン共和国レイテ島タバongo市
ヒマルコ村
内容：水道設備の改善
期間：約 20 日間
予算：420,000P (約 105 万円)



ワークの目的

Survey 報告でも述べたがこの BRGY GIMARCO は、水道設備に大きな問題を抱えている。村にある水道設備では村人は夜間の限られた時間にしか水を手にいれることができない。この問題を解決するために歴代の村長やカラヒと呼ばれるプロジェクトチームは、幾度となく水道設備のプロジェクトを行ってきた。しかし政治上の対立の影響を受け、他政党の行ったプロジェクトには適切な管理が行われてこなかった。そのために未だにこの村の水道設備は大きな問題を抱えているのである。

今回、自分たちがこの村に参入するメリットとしては、政党とは無縁という立場をとる自分たちが村の各地の水道設備を改善し、村全体が使える 1 つの水道設備として整備し直すことで政党に関係なく全ての村人が使用、管理することができるということが挙げられる。そのため今回、自分たちは水道設備を完成させるだけでなくその後の村人が自分たちの手で水道設備を管理し、改善していく。つまりは村人が自立していくためのワークを目指していく。

ワーク内容

BRGY GIMARCO はハイウェイに沿っているためワークを行う範囲はとても広大になることが予想される。

主なワーク内容

Stage I water source の改善。

Stage II water tank I およびパイプラインの修繕

Stage III water tank II の新設および各所への接続

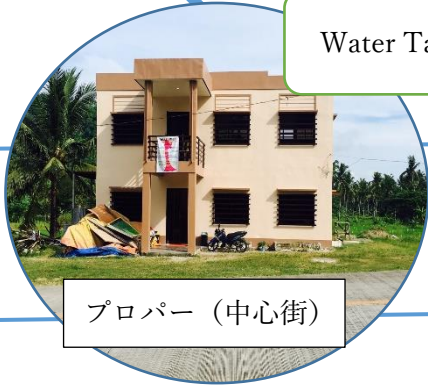
2017年度ワーク全体

Stage I water source の改善。

Stage II water tank I およびパイプラインの修繕。

Stage III water tank II の新設および各所への接続。

ハモラウン地区



プロパー (中心街)

Water Tank II



Water Tank I



Source Tank

High Way

各 Stage の詳細

<Stage I water source の改善>

この村では水源として湧き水が利用されているが、水量としては未だ不十分である。そのため、まず第一に水源である湧き水の改善に取り組む。

- ・掘削による水量の確保
- ・周辺の湧き水を集めるためのコンクリート製タンクの新設

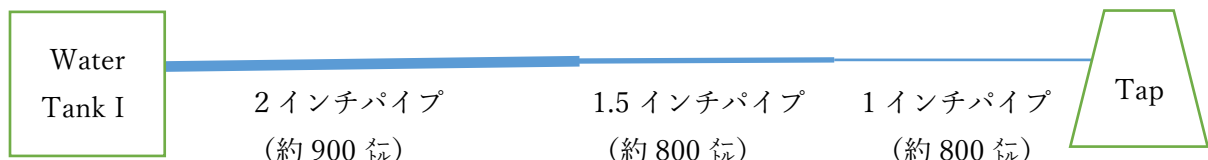
<Stage II water tank I、パイプラインの修繕>

現在、水源から得た水は一度、山中にあるタンク（以下 water tank I と呼ぶ）に貯水され、その water tank I から村の各地へと供給されている。しかし、water tank I、パイプラインのいずれにおいても老朽化が進み、修繕の必要がある。また、現在のパイプの直径では十分な水圧が確保できていないためその点も改善する。

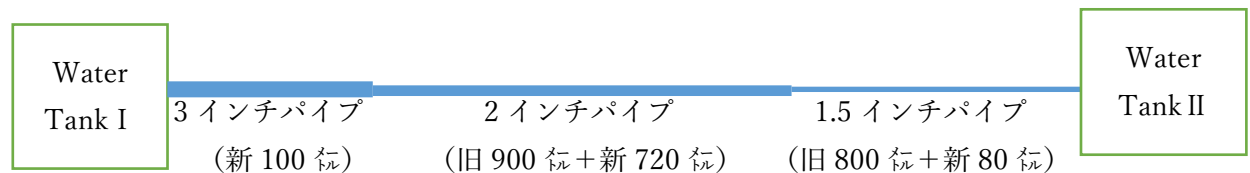
- ・water tank I の破損箇所の点検及び修繕
- ・パイプラインの交換、修繕による水圧の確保

※新パイプライン（案）

現在の状態



Work 完了後



<Stage III water tank II の新設と各地域への接続>

今回のワークの最終目的は村人が時期、天候に関わらず良質な水を手に入れるようになることである。そのためには村の中心部に水を貯水するためのタンクが不可欠である。また、そのタンクから直接水を汲むことが困難な地域へのパイプの接続も必要である。

- ・中心部での water tank II の新設
- ・各地域へのパイプラインの接続

・2018年春ワーク予算

FIWC	パイプ類	3インチブルーパイプ	20本	60,000
		3/4インチPEパイプ	300m	10,000
		1/2インチPEパイプ	300m	5,000
	water tank I			50,000
	water tank II			5,000
	雑費	スコップ	12本	3,600
		パイプレンチ	2個	1,500
		GI TEE	3個	300
		GI CUP	3個	200
		ブッシングリドゥーサー(1×1/2)	20個	500
		ブッシングリドゥーサー(2×1)	4個	300
		ブッシングリドゥーサー(1/2×3/8)	20個	500
		GI ニップル	20個	500
		ニップル (3/8×4)	20個	500
		PVCコップリング(2)	6個	1,200
		PVCコップリング(3/2)	6個	1,000
		ゲートバルブ(2)	2個	2,000
		ゲートバルブ(1)	2個	1,000
		のこぎり	5個	300
		GI CUP(3/8)	20個	300
		バケツ	12個	800
		SAHARA compouno	40袋	2,000
		ハンマー	2個	600
		のこぎり (木用)	1個	400
		GI ユニオン	5個	600
		エルボー(45°)	3個	200
		釘(4)	15キロ	750
釘(5/2)		5キロ	300	
釘(3/2)	2キロ	150		
サンド グラベル			10,000	
合計			159,500	
ムニシパル	2インチブルーパイプ	18ロール	162,000	
バランガイ	フェアウェルパーティー代		98,000	
合計			419,500	

6.Evaluation について

【Evaluation とは】

前回のワーク地に再訪し、前回行ったワークの状況と日本人との生活についてインタビューによって事後評価を行う。今回は前回のワーク地であるBUTASON Iで行った。

○2016年度春ワーク

〈概要〉

- ・場所：フィリピン共和国レイテ島タバongo市BUTASON I 村
- ・内容：橋の建設
- ・期間：2/21～3/21（ワーク日18日間）
- ・参加者：FIWC九州（18人）、村人（一日15人程度）、カガワット（村役員）、現地エンジニア

○Evaluation方法

- ①建設した橋で待機し、橋を渡る人々にインタビュー。
- ②プロパーの家々を一軒一軒回り、インタビュー。

①橋でインタビュー

【ワークについて】

1. Do you use the bridge? Yes 16 / No 0
(橋を使っていますか?)
2. Did any inconvenient happened because of the bridge? Yes 0 / No 16
(橋に関して何か困ったことが起こりましたか?)

②家々でインタビュー

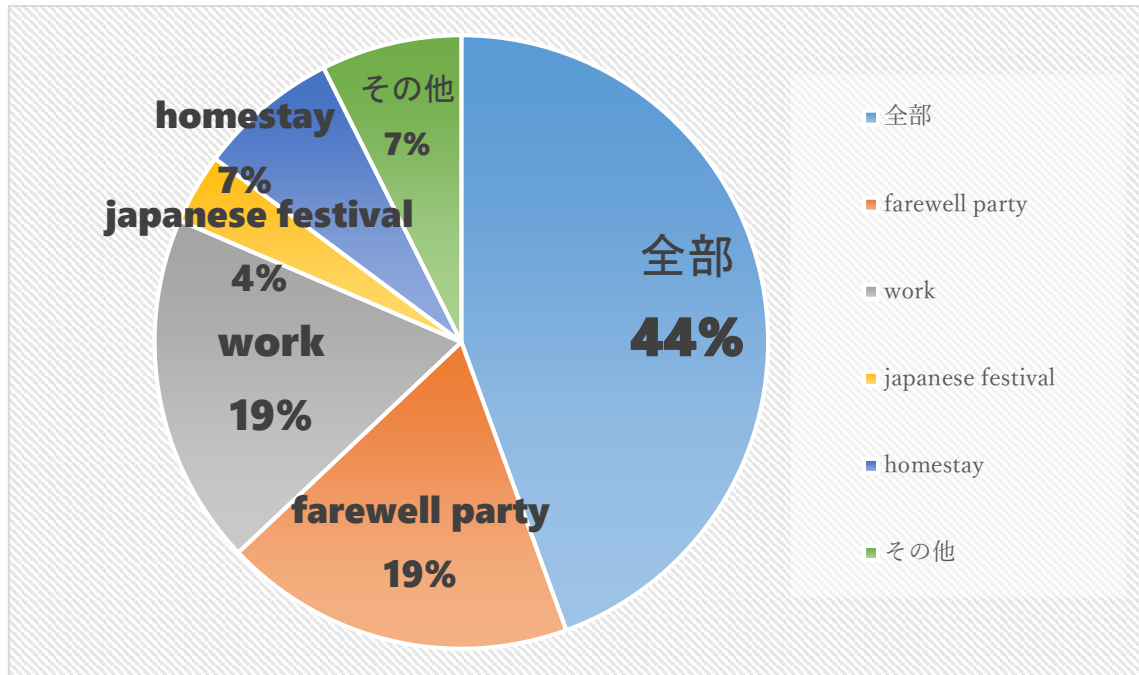
【ワークについて】

1. Do you use the bridge? Yes 26 / No 0
(橋を使っていますか?)
2. Did any inconvenient happened because of the bridge? Yes 0 / No 26
(橋に関して何か困ったことが起こりましたか?)

【日本人の滞在について】

1. Did you enjoy our stay? Yes 26 / No 0
(日本人の滞在を楽しんでもらえましたか?)
2. Is there any FIWC members' behavior annoyed you? Yes 0 / No 26
(私達 FIWC の行動で迷惑だったことはありますか?)

3. What did you enjoy the best?
(何が一番楽しかったですか?)



4. What do you think about our homestay?
(ホームステイはどうでしたか?)

Good 6/ Bad 0

5. Was it hard to cook for us?
(私達のためにご飯を作るのは大変でしたか?)

Yes 0 / No 6

【総括】

インタビュー中も感じたのは、橋が村人によって大切に使われていること。話を聞いても多くの村人が「ありがとう」と言ってくれた。また、滞在中に多くの村人が橋を渡る姿を見かけた。私たちが村人と一緒に作った橋は、村人の生活に欠かせないものとなっていた。

気になるのは、支柱が少し崩れていたこと。村人は気づいていないようだったが、カピタンは気づいていた。カピタンに聞いた。「橋を修復してくれますか」カピタンは即答した。「もちろん」しかし、気づいていながらも修復していない現実がそこにはあった。正直、橋の修復となると、一村人のみでできる規模ではないように思う。だから、修復がなかなかされにくいかもしれない。メンテナンス=自立促進と捉えるのであれば、自立促進はできていなかった。少し残念ではあったが、落ち込んではいない。自立促進がこの先促される可能性はゼロではないから。

今回私たちが働きかけたことで変わるかもしれない、私はその可能性に懸けてみたい。

1.生活状況

衣

基本的に半袖半ズボンにクロックスで過ごす。フィリピンは雨季と乾季があるが一年中暑く、最高気温が30℃を超えるような日がほとんどである。しかし日本の夏ほどじめじめした暑さはなく比較的カラッとした暑さで、日本の夏ほど不快な暑さではない。ほとんどのキャンパーが熱中症予防や日焼け対策のために帽子をかぶっていた。山道に入るときは長ズボンとクロックス、マリンシューズなどの足全体を覆えるものでないと草まけやけがの原因になるので注意。朝晩は冷え込むことがあるので長袖長ズボンがあるとよい。ほとんどの衣服は現地で安く購入できる。



食

フィリピン料理は鶏肉、豚肉、野菜、魚介類などを醤油や塩、マジックサラップという日本でいう味の素などで味付けしたものが中心で、比較的日本人の味覚に合うものが多い。主食は米で大きなお皿に盛りつけられたおかずを自分が食べる分だけ取るという形式である。そしてよく「フィリピンの料理って美味しいん？」と聞かれるが私は迷わず

美味しい！！！！

と答える。ほんとに美味しいのでいただきますの号令とともにキャンパー間でおかずの強奪戦になることもしばしば、、

水に関しては現地の水を飲むのは大変危険なのでミネラルウォーターを買って飲むようにしていた。そしてフィリピンで飲む酒もまた美味しい！有名なのはフィリピンのウィスキー「エンペラドール」キャンパーと熱く語りながら飲んでもよし、一人物思いにふけりながら飲んでもよし。ただし飲みすぎに注意。次に有名なのが「トゥバ」村人たちみんなに愛されているお酒で、よく村人とともに飲む。正直わたくし大村はあまり好きではない（笑）

そしてやっぱりフィリピンの食べ物といえばやっぱりこれ！

バナナ！！！！

そのまま食べてもよし、サクッと揚げて甘く味付けした天ぷらにしてもよし！

みんな大好きバナナ！とても美味しい！



住

●滞在地

私たちはバランガイホールという公民館のような施設で寝泊まりしていた。寝るときはゴザを敷いてみんなで一緒にその日の思い出やたわいもないことを語りながら寝る。



●トイレ

フィリピンのトイレは便器の横に大きなバケツと桶が置いてある。用を足すと桶で水をすくって手動で流す。最初は日本と異なるので戸惑う人もいるが、3日もすれば慣れるのでご安心を。



●洗濯（ラバ）

キャンパーが1日使った服はすべて手洗いする。洗濯するメンバーはKPが作ったシフトに従って交代制で行う。洗濯機とは違い汚れがなかなか落ちにくいですが、メンバーで協力してラバを行う。

●売店（サリサリ）

お菓子やジュース、アイスやお酒を売っている村の売店。村のあちこちにありそれぞれ品ぞろえも違う。中にはシャンプーや歯ブラシを売っている店もあった。主にキャンパーはサリサリでジュースを買っていて、コーラやスプライトを買って喉を潤わしていた。



●お風呂（リーゴ）

最後にお風呂事情について。現地の人たちには日本のように湯船につかる習慣がなく、その代わりにバケツに水をためて桶で水をすくって浴びる通称「リーゴ」というものが主流であり、私たちもリーゴをしていた。真夏にシャワーを浴びる感覚でとても気持ちいい！！



8.各係報告

〇イベント

(主な仕事)

イベント (Japanese Festival) の企画・準備・司会進行



Japanese Festival

9/3(日)13:00~

今回の下見キャンプでは、来年度のキャンプ地であるヒマルコの balan ガイホール (公民館) にて行った。

【スケジュール】

1. 日本語教室

「おはよう」などの簡単な挨拶から、子どもたちに使ってほしい「お兄さま」や「かわいい」などの言葉も加え、8語ほど教えた。日本語を知らない子がほとんどであったため、ちょうどいい語数であったと思われる。前回と同様に、ルーズリーフと鉛筆を渡して、書いて覚えてもらった。初の日本語に対して、子供たちは熱心に覚えようとしていた。



2. 歌

前年と同様に、歌はスピッツの「チェリー」を歌った。初めての村であったため、みんなチェリーを全く知らなかったが、イベントをする前にキャンパーたちが近所で子供たちに歌っていたこともあり、歌うことができる子どもたちが多かった。

日本人もフィリピン人も心を通わすことができた瞬間のように思われ感動した。

3. 日本食試食会

今回は日本食を“炊き込みごはん”にした。日本から持ってきた炊き込みごはんの素を混ぜるだけで作れるため、調理は簡単であった。しかし、そのごはんをおにぎりの形にぎる過程で、ごはんの量が多く、できたてのごはんは熱すぎたため、手間が相当かかってしまった。子どもたちに渡すと、味が薄かったのかあまり好評ではなかった。またおにぎりが大きすぎて食べきれない子もいた。次回は別の日本食に挑戦するのが良いと考える。



4. ゲーム

椅子取りゲームや現地の遊びであるサックレース、スリッパ-x、ペーパーダンスを日本人とフィリピン人みんなで行った。最初は雨が降っていたため、急遽室内にて椅子取りゲームを行った。椅子取りゲームは子どもたちも知っていたため、スムーズに行うことができた。サックレースは近所の人にサックを借りてチーム分けをして行った。大人数であったためスタートに少し時間がかかったが、とても盛り上がった。スリッパ-xは日本人vsフィリピン人でやって、これもとても盛り上がった。ペーパーダンスはフィリピン人のある女の子が我々に教えてくれたゲームで、フィリピンの子どもたちと楽しい時間を過ごすことができた。



【反省】

イベントを開催する直前に雨が降っていたため、開始時間を過ぎ急遽室内にて行うことになり、村人たちを待たせてしまった。フィリピンのこの時期は雨季であるため、雨が降ったときのことでも考えて計画できたら良かったと思う。また、今回のイベントではフィリピン人のある女の子が我々にとっても協力してくれたおかげで、フィリピン人たちへのルール説明などに手間が全くかからなかったのは大きかった。かなりスムーズに進行できたため良かった。だが、ゲームの時間のときは子どもたちが盛り上がりすぎて、収集がつかなくなる時もあったが、なんとかイベント係りだけではなく他のメンバーの協力もありなんとか司会・進行を進めることができた。その点で、子どもたちが盛り上がり過ぎた対策としてなにか案を出しておくべきであった。



○会計

Private

生活費		15000
個人費		10000
予備費		10000
渡航費		50000
保険料		10000
予防接種		10000
合計(P)	105000	



9. Attraction of camp... (キャンプの魅力)

大切な人がいつも隣にいること りこ

絶対に後悔はさせない たくや

必ず自分を成長させてくれる りお

自分の居場所ができる感じ しほ

もう一つの帰る場所ができる まなか

何かを与えるだけじゃない ゆうき

家族ができる感じ こうしろう

